

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.86

2007/01/15

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 気になる今年の暖冬・・・

1 月も中旬だというのに少ない積雪(07/01/10)



凍結した地塘と新雪のブルテ(07/01/15)

湿原と健脚コースのピークとでは 250m 弱の高低差ですが、ピーク付近ではわずかながらかなりの頻度で降雪になります。降雪の日は風向きによって木々の樹幹に着雪する側がわずかに変化します。木々の根曲がりの方向と着雪の側とを見比べるのもこの時期の楽しみの1つです。

もちろん例年通りこの時期は、木々が落葉しているの遠望ができることや、アカガシ林とブナをはじめとする落葉樹の分布の境目(反時計回り健脚コースの尾根筋)を撮影するのも好都合です。

世界各地から暖冬異変のニュースが続々の昨今です。もちろん山門水源の森も例外ではありません。私たちの日常生活では、積雪は障害と背中合わせで嫌われることが多いのですが、生態系にとってはリズムの急変は大敵です。本会も今年から本格的に「山門水源の森」での温暖化との関連の調査を開始します。もちろん滋賀県での過去 100 年間での気温上昇が 1.2 というペースでの気温上昇ですから、短期間にその影響がとらえられるものではありませんが、データの蓄積こそが重要だと思われます。日本海側と太平洋側の生物

の接点にあたる「山門水源の森」ならではのテーマでもあります。会員のみなさんも、訪問時には是非そんな目で観察をしていただきたいと思えます。

しかし湿原では、暖冬であるが故に観られる光景があります。それは地塘とブルテのコントラストの素晴らしさです。ブルテはふんわりとした新雪が被い、地塘は凍結しているというものです。気温が上昇すると凍結した地塘はシャーベット状になります。



降雪時の風向きを察知できる着雪(07/01/15)

今冬の積雪はこれまでの最高は、ピークで 30 cm と非常に少ないが、気温が高いため重い雪が多かったためか、落枝や倒木が予想外に多い。右の画像は、散策コースの中程俗称「大曲」付近で、根こそぎ木が倒れたため観察コースが崩壊した現場である。冬場の一般訪問者はごく希であるため修復は雪解けを待って実施する予定である。

例年 12 月に多く観られるキノコが、今年はやっぱり暖冬のせいか 1 月中旬だというのに各所で観られる。ヒラタケ、ナメコ等は例年以上に発生している。気候だけの要素ではなく、キノコの発生し易い枯れ木が増加していることもあるのかも知れない。15 日の観察では、どのキノコも完全に凍結し「冷蔵食品」になっていた。解凍した後の様子はどうなるのか興味津々である。



ヒラタケ (07/01/10)



ハナヒラニカワタケ (07/01/15)



コナラの倒木にナメコ (06/12/22)



トキイロヒラタケ (07/01/15)



真新しい注連縄の守護岩を囲んで「乾杯！」(07/01/01)

倒木で崩壊した観察コース (07/01/10)

森の動物は、今は表向きイノシシが最も活発なようです。積雪量が少ないため中腹より下の各所で、ミミズ等を掘り起こしています。頂上部に近づくとシカ、ノウサギが多くなります。ノウサギは、ヒサカキの葉柄の部分に限定して食しているようで、葉そのものはその場に残っています。最近かつてよく見かけたカモシカにお目にかかりません。ニホンリスは、この雪の中でもアカマツの実をせっせと食しており、あちこちに喰い滓のエビフライが見られます。

足跡からはこの他にキツネではないかと思われれるものと、ツキノワグマ(跡が不鮮明・大きくない)らしきものが見られます。

恒例の「元旦守護岩詣」は、最初一人から始まりましたが、年々参加者が微

増し今年は 9 名の参加となりました。昨年の 2m を越える積雪は夢のようで、今年は山頂で 18 cm と楽々の初詣となりました。到着後浅井会員の労作である注連縄をお奉りし、日本各地の銘酒・ご馳走をお供えし、会員の今年 1 年のご活躍と森の安全をお祈りしました。その後は昨年までなら大宴会となりましたが、時節柄乾杯の御神酒程度とし、後は今年の保全活動への意気込みを語り合った次第です。

今年から 4 月以降第 3 土曜日を『保全作業の日』とし、定期的な保全作業を実施します。広大な森であるだけに、保全作業の量も種類も多いので会員の皆さんの一層のご協力をお願いいたします。